立山カルデラ砂防博物館

立山駅近くにある立山カルデラ砂防博物館には、地質や自然災害に対する地元の人々の経験を中心に、この地域の歴史が詳しく展示されている。立山火山の起源と活動、立山カルデラの形成、立山を中心とした信仰の歴史などがカバーされている。

特に、砂防（「砂を防ぐ」）と呼ばれる、地域の土砂災害の防止・軽減活動に注目する。砂防は立山カルデラから立山町を流れ、富山平野を横断して日本海に注ぐ常願寺川の上流域で行われている。立山カルデラは数十万年にわたる浸食によって形成され、その壁面からは今も大量の土砂が川に流出している。1858 年に起きた大地震で、カルデラ内で大規模な地滑りが発生し、川の流れが一時的にせき止められたことだった。この天然のダムが崩壊すると、土石流が川沿いの地域に大きな打撃を与えた。この自然災害が砂防工事のきっかけとなった。

カルデラから川によって運ばれる土砂の量を調整し、川岸の浸食を防ぎ、富山平野の水田に安定した水を供給するための努力は 1906 年に始まり、現在も続いている。カルデラ内にあるいくつかのダムの維持管理、定期的な河岸の補強、資材や作業員の輸送に使われる専用鉄道の維持管理などが含まれる。砂防工事の見学ツアーは 7 月から 10 月にかけて週 2 回開催され、博物館のウェブサイトから予約することができる。